

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：稼働率・生産能力指数(5月)

発表日：7月13日(水)

～ 高水準の稼働率が設備投資を下支え ～

(No. J - 67)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 新家 義貴(03-5221-4528)

(単位:%)

		稼働率指数						生産能力指数					
		製造工業		電子部品・デバイス		輸送機械		製造工業		電子部品・デバイス		輸送機械	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
03	1-3月	0.6	6.9	3.0	23.6	▲1.9	3.7	▲1.1	▲2.3	▲2.2	▲4.4	▲0.5	▲0.9
	4-6月	0.0	3.9	▲2.1	2.3	▲1.1	1.8	▲0.6	▲2.6	1.2	▲2.8	▲0.8	▲1.7
	7-9月	0.6	1.6	6.4	4.5	1.6	▲0.5	▲0.4	▲2.5	▲0.1	▲2.4	▲0.3	▲1.5
	10-12月	3.5	4.1	7.1	12.9	2.9	1.2	▲0.1	▲2.3	0.6	▲0.6	▲0.1	▲1.6
04	1-3月	0.1	6.0	0.3	13.3	▲1.5	3.7	▲0.5	▲1.7	0.8	2.5	▲0.1	▲1.2
	4-6月	1.9	5.7	0.6	15.3	4.3	6.5	0.1	▲1.0	4.2	5.5	▲1.9	▲2.4
	7-9月	0.3	5.6	▲4.6	2.7	▲0.7	5.2	▲0.1	▲0.7	1.5	7.3	▲0.7	▲2.7
	10-12月	▲0.2	2.2	▲5.0	▲8.5	0.3	2.9	0.0	▲0.5	2.5	9.3	0.1	▲2.6
05	1-3月	0.9	1.6	1.7	▲8.4	3.4	5.9	▲0.3	▲0.3	0.3	8.7	1.0	▲1.5
04	1月	2.5	4.8	▲0.2	12.8	1.5	▲0.9	▲0.4	▲1.8	▲0.3	1.4	▲0.1	▲1.8
	2月	▲4.0	5.5	▲3.3	11.9	▲3.3	2.0	▲0.1	▲1.7	0.0	1.4	0.0	▲0.9
	3月	0.9	7.5	2.5	15.0	2.5	9.3	0.2	▲1.5	2.8	4.8	0.0	▲0.9
	4月	2.7	6.7	▲0.1	15.2	4.5	9.8	0.2	▲1.0	1.3	4.6	0.0	▲0.8
	5月	0.0	3.1	1.3	15.8	▲2.3	▲0.4	▲0.4	▲1.2	1.4	5.5	▲3.1	▲3.4
	6月	▲0.1	7.2	▲1.9	14.9	2.4	9.9	0.1	▲0.8	0.0	6.5	0.5	▲2.9
	7月	0.4	4.7	▲3.0	5.4	▲1.5	3.6	▲0.1	▲0.8	0.8	7.3	0.0	▲2.9
	8月	0.2	8.4	1.7	7.0	▲1.5	6.1	0.1	▲0.7	0.3	7.5	0.0	▲2.9
	9月	▲0.5	4.1	▲5.7	▲3.8	3.1	6.1	0.0	▲0.7	0.2	7.2	0.2	▲2.5
	10月	0.0	▲0.2	▲0.2	▲7.4	▲0.5	▲0.9	0.0	▲0.5	2.1	9.2	0.0	▲2.5
	11月	0.8	5.6	▲2.6	▲8.3	1.5	10.0	0.0	▲0.5	0.1	9.5	0.0	▲2.5
	12月	▲1.4	1.2	0.7	▲9.9	▲5.1	▲0.3	0.0	▲0.4	0.3	9.3	▲0.1	▲2.6
05	1月	3.1	1.6	2.7	▲9.0	6.8	5.3	▲0.2	▲0.2	▲0.3	9.4	1.1	▲1.5
	2月	▲1.7	1.8	▲0.7	▲8.1	▲0.4	7.2	0.0	▲0.1	0.3	9.7	0.0	▲1.5
	3月	▲1.2	1.4	▲0.5	▲8.3	0.1	5.2	▲0.1	▲0.4	0.4	7.1	0.0	▲1.5
	4月	4.3	2.6	2.5	▲6.8	5.7	5.6	▲0.1	▲0.8	▲0.8	4.9	0.0	▲1.5
	5月	▲2.3	2.9	▲3.4	▲9.4	▲7.5	4.4	0.3	0.0	2.3	5.8	▲0.2	1.4

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

○ 4-6月、7-9月期生産は現時点では低下見込み

本日、5月の鉱工業指数確報が公表された。生産指数は前月比▲2.8%と速報段階の同▲2.3%から▲0.5% P下方修正された。また、出荷が同▲3.0%(速報同▲2.7%)、在庫が同+0.1%(速報同0.0%)、在庫率が同+3.0%(速報同+2.7%)とそれぞれ速報段階から悪化した。この結果、仮に6、7月の生産予測指数(前月比+1.7%、同▲1.2%)通りに推移すれば、4-6月期の鉱工業生産は前期比▲0.4%、7-9月期は同▲1.0%となる(8、9月は横這いと仮定)。このように、鉱工業生産は1-3月期に大幅に増加した後、4-6月期、7-9月期には小幅低下が現時点では見込まれている。結局のところ、1-3月期の大幅増加は昨年10-12月からの反動や、鋼船要因による押し上げ、化学での定期修理前の造り込みといった一時的要因によって押し上げられた面が大きかったということだろう。以上から、1-3月期から7-9月期まで均してみれば生産は横這い圏内の動きが続いており、まだ踊り場脱出には至っていないと言えそうだ。個人消費や設備投資などの民間内需は足元でも比較的底堅く推移しており、景気失速リスクはかなり小さくなってはいるが、生産を増加傾向に転じさせるだけの力強さはまだ感じられない。踊り場を脱出するためには、10-12月期と予想される輸出の回復を待つ必要があるとの見通しを維持したい。

○ 稼働率は引き続き高水準

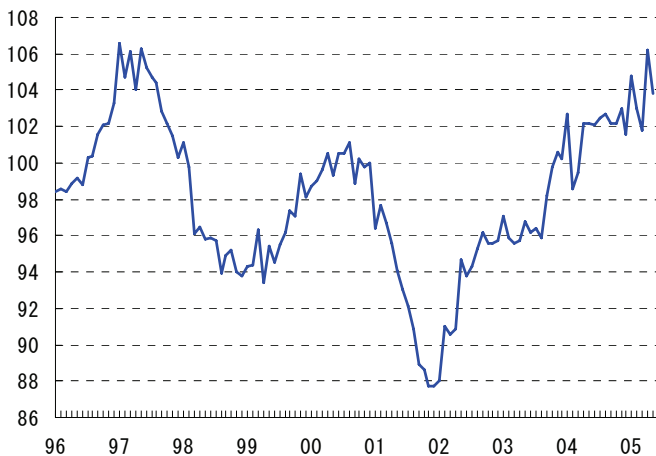
同時に公表された5月の稼働率指数は前月比▲2.3%と低下した。もっともこれは、前月に急上昇(同+4.3%)した反動に過ぎず、均してみれば、稼働率は年初以降緩やかな上昇傾向にある。企業は増産投資に依然として慎重であることや、老朽化した設備の除却を引き続き進めていることなどが、稼働率の上昇の背景にあると思われる。このように、足元では設備ストックの積みあがりは見られておらず、稼働率も高水準にあることは、先行きの設備投資についてのサポート材料となるだろう。

5月の機械受注が前月比▲6.7%と大きく落ち込むなどといった悪いニュースも散見されるが、底堅い企業収益や高水準の稼働率、企業リストラ終息への動きなど、設備投資を取巻く環境自体は悪くない。各種設備投資計画が軒並みかなり高いものになっていることも合わせて考えれば、今後も設備投資は底堅く推移することが予想される。

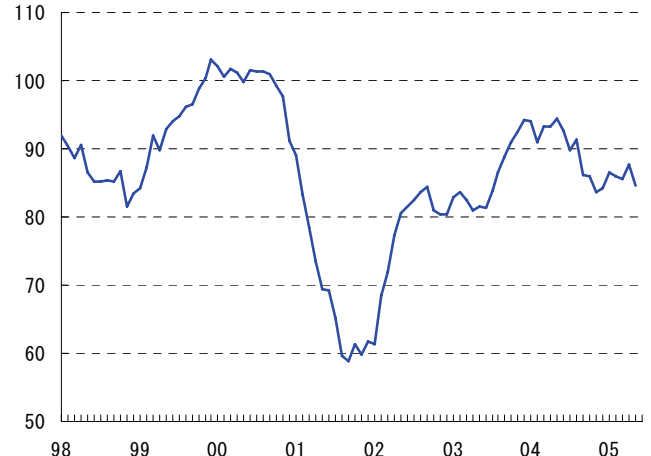
○ IT部門で気になる動きも

生産能力指数は前月比+0.3%と9ヶ月ぶりの増加となった。設備投資の増加などが一部、生産能力に繋がってきたものと思われる。特に、電子部品・デバイスが前月比+2.3%となったことが目を引いた。IT関連財の在庫調整はまだ終了してはおらず、現時点で生産能力を大きく増やす状況ではないと思われるため、4、5月のIT部門の出荷在庫バランスが悪化していることとも合わせ、やや気になる動きだ。当社では、夏場にはIT部門の在庫調整には目処がつくと想定しているが、IT関連財の早期の生産能力拡大が再び需給バランスを悪化させ、回復時期を遅らせるリスクには注意が必要である。

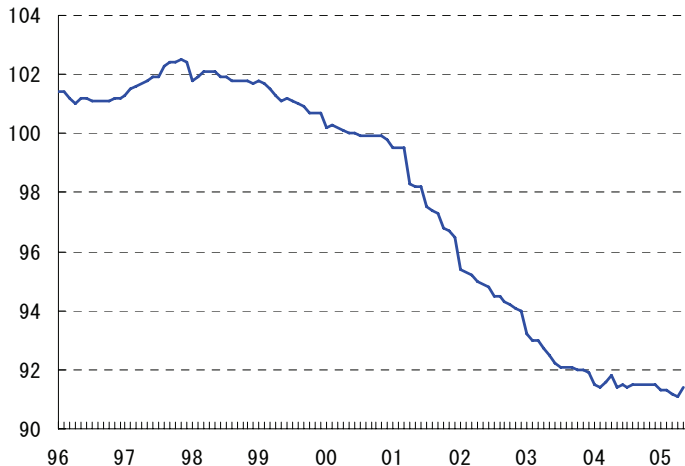
設備稼働率 (季調値、指数)



稼働率・電子部品・デバイス (季調値、指数)



生産能力指数 (製造工業)



生産能力指数・電子部品・デバイス (季調値、指数)

